

＜藤山台中学校区・岩成台中学校区＞  
学校統合に向けた意見交換会 議事録

1 開催日時

令和8年5月30日（土）午前10時～午後0時10分

2 開催場所

東部市民センター 多目的室

3 参加者数 23名

【事務局】

春日井市教育委員会		部長	森本	邦博
学校教育課	新たな学校づくり推進室	室長	梶田	傑
〃	〃	室長補佐	深見	健司
〃	〃	主査	安田	和志
〃	〃	主事	杉山	太一
〃		指導主事	西崎	慎也

4 内容

- (1) 学校統合に向けた検討について説明・意見交換
- (2) 参加者どうしによる意見交換

5 会議資料

＜藤山台中学校区・岩成台中学校区＞学校統合に向けた検討について

## 1 開会

### 【教育部長あいさつ】

日頃より市政にご理解とご協力をいただき、御礼申し上げます。

ご存じの方もいらっしゃると思いますが、昨年度に実施された国勢調査の速報値が昨日発表されました。その速報値によると、愛知県の人口は744万9,403人であり、5年前と比較し9万3,012人減少したことになります。国勢調査は5年ごとに実施されていますが、今回、愛知県の人口が戦後初めて減少することとなり、象徴的なタイミングであると考えています。また、国勢調査における春日井市の人口は、平成22年では30万5,569人、平成27年は30万6,508人、令和2年は30万8,681人と増加を続けてきましたが、令和7年の速報値は30万3,120人となり、令和2年と比較すると5,561人減少しています。春日井市でも人口の減少に転じたことで、この先、引き続き減少傾向が続いていくと考えています。

こうした背景もあり、教育委員会では小中学校の適正規模や適正配置について検討を進めています。子どもたちは一定の集団の中で多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて成長していくものであると考えています。そのためには、一定の子どもたちの集団が必要であると考えています。子どもたちが少しでも多くの友達や先生に出会い、人間関係の幅が広がるように、1学年に2学級以上あり、クラス替えができる学校規模であることが必要であると考えています。

高蔵寺ニュータウン地区においては、将来、全ての学校が過小規模または小規模になることが推定されますので、市内においても最優先で検討に取り組んでいます。今後、より具体的な検討を進めていくために、本日は基本方針（案）をお示しし、皆様から様々なご意見をいただきたいと思いますと考えています。将来を見据えて、今後の学校をどうしていくかということは、非常に難しい課題であると考えています。地域の方も含めて皆様の思いや考えは多様ですので、議論を積み重ね、子どもたちにとってより良い教育環境を皆様とつくっていったら良いと考えています。

本日は実りある意見交換会となりますようにご期待申し上げまして、挨拶とさせていただきます。

## 2 学校統合に向けた検討について説明・意見交換

### (1) 説明

#### 【事務局】

#### I 小中学校の適正規模等の取組について（資料1～4ページ）

- ・子どもたちの数の減少により、今後、標準的な規模を下回る学校が増えていくことが想定される中、子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合いながら成長し、社会性を身に付けていくためには、一定の学校規模を確保することが望ましいと考えている。将来を見据え、子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進めている。
- ・本市では、令和7年2月に「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」を策定した。その中で、国の基準を参考に、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から、学校規模の区分を設けた。学級数の基準については、1学級あたりの児童生徒数を小学1年生から中学2年生までは35人、中学3年生は40人としている。なお、中学校について、愛知県では3年生が令和9年度以降、40人学級から35人学級へ移行することとされており、令和9年度からは1学級35人で推計している。
- ・本市は、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数の教員を配置するためには、小学校、中学校ともに、1学年に2学級以上あることが必要であると考えている。そこで、どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や、一部の学年でクラス替えができない「小規模校」について、過小規模校を優先に、通学区域の変更や学校の統合などにより、適正規模の確保に努めるように検討することとしている。
- ・中学校区で見た場合に、将来すべての小学校が「過小規模校」又は「小規模校」になると推定される、坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の5つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、対象の中学校区においてアンケートを実施し、その後、対象の中学校区ごとに2回の意見交換会を開催した。また、藤山台・岩成台中学校区では合同で第3回意見交換会を開催した。

#### II 児童生徒数推計について（資料5～8ページ）

- ・中学校では令和19年度まで、小学校では令和13年度までは、令和7年度の0歳から5歳の子の実際の人口に基づき推計している。令和22年度は、市が人口の現状分析などから将来の人口動向を推計した「人口ビジョン」と言われる計画から推計している。児童生徒数推計については、令和8年度の児童生徒数とそれに伴う今後の推計を現在作成しているため、資料は令和7年度の数値をもとに記載している。

- ・藤山台中学校区の各学校の「児童生徒数」と「学級数」の現状と今後の推計について、藤山台中学校は、令和7年度、生徒数190人、6学級で、学校規模は、小規模だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」である。今後は、生徒数、学級数ともに減少し、令和15年度には、クラス替えができない学年がある「小規模」に、令和16年度からは、全学年でクラス替えができない「過小規模」になると推定される。
- ・藤山台小学校は、令和7年度、児童数317人、12学級で、学校規模は「適正規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和11年度には「小規模」となり、令和22年度では「過小規模」であると推定される。しかし、実際には、令和8年度の1年生は35人で1学級となった。今年度すでに「小規模」になっている。
- ・岩成台中学校区の各学校の推計について、岩成台中学校は、令和7年度、生徒数235人、7学級で、学校規模は「やや小規模」である。今後、生徒数及び学級数は減少し、令和22年度では「過小規模」であると推定される。
- ・岩成台小学校は、令和7年度、児童数201人、8学級で、学校規模は「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和11年度から、「過小規模」になると推定される。
- ・岩成台西小学校は、令和7年度、児童数295人、12学級で、学校規模は「適正規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和12年度から「小規模」になり、令和22年度では「過小規模」であると推計される。
- ・仮に岩成台小学校と岩成台西小学校を統合した場合の合計は、令和13年度では、児童数369人、14学級で、学校規模は「適正規模」だが、令和22年度では、児童数199人、8学級で「小規模」であると推定される。  
岩成台小学校と岩成台西小学校を統合したとしても、令和22年度ではクラス替えができない学年があり、適正規模の課題が解決しないこととなる。

### III アンケート結果について（資料9～10ページ）

- ・藤山台中学校区について、「1学年に2学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、「ぜひ進めるべき」又は「進める方がよい」と回答された「賛成」の方の割合は、藤山台小学校の保護者では66.6%となっている。地域の方も小学校単位で集計しており、地域の方は86.9%の方が賛成と回答している。また、藤山台中学校の保護者は、77.5%の方が賛成と回答している。  
「進めない方がよい」又は「進めるべきではない」と回答された「反対」の方は、藤山台小学校の保護者で6.7%、地域の方は0%、藤山台中学校の保護者で2.9%となっている。反対の理由として、保護者の方は、小学校、中学校ともに「登下校の時間や方法」を心配する方が多くみられた。

- ・岩成台中学校区について、先ほどと同様の質問に「賛成」の方の割合は、岩成台小学校、岩成台西小学校の2校を合計した小学校「全体」の保護者では58.1%となっている。地域の方は71.6%の方が賛成と回答している。また、岩成台中学校の保護者は、61.8%の方が賛成と回答している。

「反対」の方は、小学校全体の保護者で9.5%、地域の方で19.4%、岩成台中学校の保護者で10.6%となっている。反対の理由として、保護者の方は、小学校、中学校ともに「登下校の時間や方法」を心配する方が多く、地域の方は「環境変化による子どもたちへの影響があるから」と多くの方が心配している。

#### IV 意見交換会でのご質問・ご意見について（資料11～19ページ）

- ・第1回意見交換会は、各小中学校で開催した。
- ・藤山台中学校区の第1回意見交換会について、藤山台中学校での意見交換会は9月22日に開催し、参加者は6人であった。藤山台中学校での質問は「統合に関することについて」や「今後の具体的な検討の進め方について」など、合計20件あった。藤山台小学校は10月15日に開催し、参加者は18人であった。藤山台小学校での質問は「市の考え方について」や「魅力ある学校づくりについて」など、合計21件あった。
- ・岩成台中学校区の第1回意見交換会について、岩成台中学校では9月26日に開催し、参加者は6人であった。岩成台中学校での質問は「アンケートについて」や「統合に関することについて」など、合計15件あった。  
岩成台小学校は9月29日に開催し、参加者は23人であった。岩成台小学校での質問は「今後の具体的な検討の進め方について」や「学校跡地について」など、合計18件あった。  
岩成台西小学校は10月3日に開催し、参加者は19人であった。岩成台西小学校での質問は「統合に関することについて」や「1学級の人数について」など、合計14件あった。
- ・第2回意見交換会は、各中学校区全体で開催した。
- ・藤山台中学校区の第2回意見交換会は11月29日に開催し、参加者は11人であった。藤山台中学校区での質問は、「意見交換会について」や「不登校の子どもたちへの対応について」、「統合に関する市の考え方について」、「小中一貫校について」など、合計20件あった。
- ・岩成台中学校区の第2回意見交換会は11月22日に開催し、参加者は22人であった。岩成台中学校区での質問は、「統合に関する市の考え方について」や「通学バスについて」、「魅力ある学校づくりについて」、「他自治体の事例について」など、合計21件あった。

- ・第3回意見交換会は、藤山台中学校区と岩成台中学校区の合同で3月1日に開催した。参加者は52人であった。
- ・会の前半では「中学校は、藤山台中学校と岩成台中学校の統合に向けて検討を進める。小学校は、藤山台小学校・岩成台小学校・岩成台西小学校の3校の統合に向けて検討を進める。」という市の考え方を示し、意見交換を行った。  
質問は、「避難所について」や「意見交換会について」など、合計9件あった。具体的には、「小学校の体育館は避難場所になっているが、避難場所はどうなるのか。」という意見や「地域の生活を考えると跡地のこともあわせて考える必要がある。」という意見があった。また、「アンケート結果や意見交換会の参加者数について、もっと多くの方から意見を聞いて検討する必要がある。」という意見もあった。
- ・会の後半では、5人から7人で一つのグループになり、テーマごとに参加者どうしによる意見交換を行った。意見交換は自由参加で行い、参加者数は38人だった。意見交換のテーマは、「1 統合する場合、新しい学校に望むこと」、「2 統合する場合、心配なこと」、「3 統合する場合、新しい学校の場所の考え方」の3つで行った。
- ・各テーマの主な意見を紹介する。
- ・テーマ1では、「体育館が大きいほうがよい。そうすると部活動も活発になり、子どもたちが楽しく過ごせると思う。」、「英語に特化する授業や手に職がつくような知識を学ぶ授業を導入するなど、魅力ある学校づくりが必要。」、「自分たちで考えて作り上げる教育が大事であると思うので、授業のカリキュラムを児童生徒同士で考えることができる学校がよい。」、「保護者と地域、学校が一緒になって学校づくりをしていきたい。」などの意見があった。
- ・テーマ2では、「通学バスを導入する場合、利用料金や利用基準などはどうなるのか。」、「学校が遠くなることで、登下校が不安になる。通学の見守りの体制など、安全をどう確保するのか。」、「児童生徒数推計から、仮に今回統合したとしても、その先にまた統合が必要になるのではないか。ニュータウン全体での市の考えが必要になるのではないか。」、「学校の跡地はどうなるのか。また、子どもの家は統合しても、今と同じように利用できるのか。」などの意見があった。
- ・テーマ3では、「岩成台中学校と岩成台西小学校の土地で小中一貫校ができればよい。」、「藤山台小学校は施設が新しい。小学校は藤山台小学校の校舎、中学校は岩成台中学校の校舎を利用してはどうか。」、「行政コストがかからないようにしてほしい。」、「改めて校区の見直しを図り、一番近いところに通うことにすればよい。」などの意見があった。

## V 学校統合に向けた基本方針の策定について（資料 20 ページ）

- ・本市は平成 28 年に高蔵寺リ・ニュータウン計画を策定し、住民や関係団体と連携しながら様々なプロジェクトを進めてきた。また、高蔵寺ニュータウン地区は地縁団体や市民団体が活発な活動を展開しており、地域主体のイベントが多く開催されるなど、地域のつながりが強い地区だと認識している。
- ・こうしたことから、学校統合に向けた基本方針については、高蔵寺ニュータウン地区全体で策定することとする。

## VI 高蔵寺ニュータウン地区における基本方針（案）について（資料 21～24 ページ）

- ・高蔵寺ニュータウン地区における基本方針（案）について、3つの方針を示す。
- ・方針1は、「高蔵寺ニュータウン地区を2つの地区に分け、それぞれの地区で最適な学校統合のあり方を検討します。」とする。2つの地区は、「藤山台中学校区・岩成台中学校区」と「高森台中学校区・石尾台中学校区」とする。それぞれの中学校区にある中学校と小学校を検討の対象とする。
  - ① 地区分けの考え方については、次のような地域のつながりを踏まえ、2つの地区に分けることとする。
    - ・それぞれの中学校間の距離が最も近い組合せであること。
    - ・藤山台ブロックと岩成台ブロックではPTA活動の一部を共同で実施していること。
    - ・民生委員・児童委員の活動では、「藤山台・岩成台中学校区」と「高森台・石尾台中学校区」の2つの地区で民生委員児童委員協議会を開催し、情報共有が行われていること。
  - ② 検討にあたっては、登下校について、必要に応じてバスの利用などの通学手段を検討する。
- ・方針2は、「新しい学校が魅力ある学校となるように検討を進めます。」とする。
  - ① 小中一貫教育や特色あるカリキュラムの導入など、子どもたちにとって、また地域にとって、魅力ある学校となるように検討する。
  - ② 学校と地域との連携や協働の取組を取り入れ、地域ならではの創意工夫を活かした魅力ある学校づくりを検討する。
  - ③ 地域の方が利用することができるコミュニティスペースの設置など、地域の拠点としての学校づくりを検討する。
- ・方針3は、「保護者や地域の方、学校関係者と連携しながら、丁寧に検討を進めます。」とする。
  - ① 保護者や地域の方、学校関係者の意向を尊重しながら、意見交換会などを通じてしっかりと議論を積み重ね、十分な理解や協力を得ながら検討を進める。

② 保護者や地域の方に、検討状況や意見交換の内容などの情報を積極的に発信する。

- ・参考として、藤山台中学校区と岩成台中学校区の児童生徒数推計の合計について、藤山台中学校と岩成台中学校の合計では、令和13年度まで「適正規模」で推移すると推定されるが、令和14年度には「やや小規模」になると推定される。藤山台小学校、岩成台小学校、岩成台西小学校の合計では、令和22年度においても「適正規模」を維持すると推定される。
- ・参考として、高森台中学校区と石尾台中学校区の児童生徒数推計の合計について、高森台中学校と石尾台中学校の合計では、令和16年度まで「適正規模」で推移すると推定されるが、令和17年度には「やや小規模」になると推定される。高森台小学校、中央台小学校、東高森台小学校、玉川小学校、石尾台小学校、押沢台小学校の合計では、令和22年度においても「適正規模」を維持すると推定される。

## VII 今後の進め方（資料25ページ）

- ・高蔵寺ニュータウン地区の学校統合に向けた基本方針の策定後、「藤山台・岩成台中学校区」と「高森台・石尾台中学校区」の2つの地区において、それぞれの保護者や地域の代表の方、学校関係者などで構成する「学校づくりを考える懇談会」を組織し、統合の必要性を含め、より具体的な内容について意見交換を行う。
- ・懇談会での意見交換を踏まえ、それぞれの地区の保護者や地域の方を対象に意見交換会を開催する。
- ・その後、学校を統合することとした場合は、統合に向けた計画を策定していく。計画では、統合のための具体的な方策やスケジュールなどを示す。
- ・「藤山台・岩成台中学校区」と「高森台・石尾台中学校区」でそれぞれ検討を進めていく中で、進行状況に違いが生じた場合、統合に向けた計画をそれぞれの地区で策定することを検討する。

### (2) 意見交換

#### 【質問1】（岩成台西小学校区）

人口推計について、市の人口ビジョンには、小学校区ごとの詳細な推計値は記載されていない。配布資料の児童生徒数推計は人口ビジョンからどのように計算されたのかを資料に記載するべきである。私は統合について反対ではないが、市から市民に対して説明責任が果たされていないということは、市に手落ちがあるように感じる。

**【事務局】**

今後、令和8年度を起点とした児童生徒数推計を作成していく際に参考にさせていただきます。

**【質問2】（藤山台小学校区）**

藤山台中学校区や岩成台中学校区の人口が増えれば、学校が過小規模になっていくことはないと思う。統合の検討と並行して藤山台中学校区や岩成台中学校区を魅力ある地区にすれば、人口が増えると思う。

また、藤山台中学校区と岩成台中学校区が統合する場合、近くの大きい道路が危ないので整備するなどして、子どもたちが安全に学校に通えるようにしてほしい。

**【事務局】**

私たちは教育委員会であるので、子どもたちのことを第一に考えていますが、統合の検討を進めていく中で、まちづくりや交通安全担当の部署とも連携して取り組んでいく予定としています。実際に現在も情報の共有はしており、今後も皆様にご心配をかけないように連携して進めていきたいと考えています。

ニュータウンの活性化について、市では「高蔵寺リ・ニュータウン計画」に基づき、施策を実施してきました。今後、新たに「ニュータウン構想」の策定を進めていくとともに、市とUR都市機構と高蔵寺ニュータウンセンター開発の3社で連携協定を結び、ニュータウンの活性化について取り組んでいくこととしています。

このような取組と学校統合の取組を連携して、ニュータウンの活性化につながれば良いと考えています。

**【質問3】（岩成台小学校区）**

他の部署と連携を図っていく中で、仮に地域住民が増えてきたら、児童生徒数推計も変化してくると思う。配布資料の児童生徒推計は、地域活性化を考慮した数値であるのか。

**【事務局】**

中学生は令和19年度、小学生は令和13年度までの児童生徒数推計は、現在の子どもの実数値から推計したものです。令和22年度の推計は生まれていない子どもの数も考慮して推計しているので、今後の市の施策などによって、ニュータウン地区が活性化し子どもたちが増えれば、推計値は変わると思います。

しかし、ニュータウンの活性化を待っている余裕はないと考えています。今の子どもたちの減少数から考えると、この取組は喫緊の課題として取り組むべきであると考えていますので、子どもたちが増えるような施策を実施することとあわせて、学校統合の取組も並行して進めていきたいと考えています。

**【質問4】（藤山台小学校区）**

学校の多様性について、例えば長野県伊那市立伊那小学校は多様性の学校として全国からの視察が多く来ている。また、東京都品川区では学校選択制を導入し、「品川教育ルネサンス」を推進している。このような魅力ある学校をつくっている自治体に視察に行き、研究したりしているのか。

**【事務局】**

近隣の小中一貫教育を導入している、または導入する予定がある自治体には視察に行っていますが、いただいたご意見の自治体には視察に行っておりません。直接視察に行けなくても、情報を集める手段はあると思いますので、今後も様々な学校の取組について研究していきます。

**【質問5】（藤山台小学校区）**

ニュータウン全体の活性化について、団地の空き部屋が増えたことにより、団地をリノベーションして、若い世代の人たちを呼び込む活動があったと思う。この活動がどうなったか把握しているか。

**【事務局】**

UR都市機構と無印良品のコラボレーションや、市と中部大学、UR都市機構が連携し、学生が地域の活動に参加するということを条件に割引を受けて入居しているということは把握しています。その中でも特に積極的に活動されている学生については、市が認定するなど継続的な支援を行うことで、地域との関わりを持ち続けてもらうような取組をしています。

**【質問6】（岩成台小学校区）**

高蔵寺ニュータウンでの括りについて、仮に統合する場合、高座小学校の方が通学距離が近くなる子どももおり、あらためて区割りを見直すことが必要になると思う。その場合、高蔵寺ニュータウンでのつながりが途切れるかもしれないが、新しいつながりができるという視点に立てば解消していく問題であると思うので、区割りを見直すという視点を織り込んでほしい。

**【事務局】**

各中学校区の意見交換会でも、学校区の見直しについてのご意見をいただいています。過去に藤山台小学校の統合をしたときにも、白山地区の通学区域を変更したということもありますので、今後の懇談会や意見交換会の中でこのような意見をいただいた場合は、学校区の見直しも含めて検討していくことも考えています。

**【質問 7】**（岩成台西小学校区）

今後、基本方針が策定され、懇談会が開催されていくとのことだが、具体的なスケジュールが知りたい。統合するにあたって、今の学校が閉校するまでに、PTA活動の基金を学校のためになるものに還元していきたいと考えている。統合が決まるまでの具体的な時期が分からないので不安である。

**【事務局】**

来月に高森台中学校区及び石尾台中学校区合同の意見交換会の開催を予定していますので、その状況を踏まえてになります。今年の秋頃を目途に、高蔵寺ニュータウン地区の基本方針を策定していきたいと考えています。

その後、藤山台中学校区及び岩成台中学校区の学校づくりを考える懇談会を、今年度内に立ち上げていきたいと考えています。懇談会で皆様から様々なご意見をいただき、適宜、各地区の全員の方を対象に意見交換会を開催して、意見を共有していくように考えています。その後、策定する統合に向けた計画の具体的なスケジュールについては、懇談会や意見交換会で皆様からいただく意見にもよるので、具体的に決まっていますが、今年度内の策定は難しいと思います。

**【質問 8】**（岩成台西小学校区）

何年度までに学校を統合するのか決めているのか。

**【事務局】**

皆様からのご意見をお聞きしながら進めていくという方針は変えませんので、市として統合の期限は設けていません。実際に統合するとなった場合、新しい学校をつくるのか、既存の学校を使うのかによってもその先のスケジュールは変わっていきます。今後の懇談会や意見交換会で皆様から意見をいただく中で、今後のスケジュールが決まってくると思います。

**【質問 9】**（岩成台西小学校区）

期限を決めることも必要であると思う。意見交換会に参加していても、段取りやスケジュールが分からないので、示せるものがあれば教えてほしい。

**【事務局】**

現時点で具体的なスケジュールを示すことは難しいです。懇談会で皆様と話し合っただけで議論を進めていく中で、スケジュールを示していきたいと考えています。

**【質問 10】**（藤山台小学校区）

小規模校は子どもどうしの仲が良い、ゆったりと教育ができるなどのメリットが多くある。そのため、統合する際は子どもの個性にあったゆったりと学べるカリキュラムの導入をしてほしい。

仮に岩成台中学校の土地で統合する場合、周りの交通状況が良くない。岩成台中学校の正門前の道路は狭く、一方通行ではない。統合した後は自転車通学する子どもも増えると思うので、歩道の確保や一方通行にすることも検討してほしい。

**【事務局】**

小規模校の良さについて、ご意見のとおりであると思います。ただ、1学年に2学級や3学級ある学校であっても、先生たちは同様の思いを持ちながら、子どもたちと向き合って教えています。また、学級数が多いと、クラス替えをする中で多くの人と関わることができたり、クラス対抗で競ってクラスの仲が深まったり、団結して学習や行事を進めたりできるなどの良さがあります。小規模校のままで学校生活を送っていると、高校や大学に進学した際に多くの人と関わることになるため、少し戸惑ってしまうこともあると、長年子どもたちを見ている中で感じています。そのため、適正規模の学校の中で子どもたちに良い経験をさせてあげたいという思いもありながら、統合の検討を進めているところです。

また、統合後の学校の場所についてはまだ決まっていますが、通学の安全の確保は市が行うべきことであると思いますので、学校の場所がどこになってもしっかりと検討していきます。

**【質問 11】（岩成台小学校区）**

参加者どうしによる意見交換について、意見に対する市の考えが示されていない。私は市に統合の検討について聞きたいことがあるので、質疑応答の時間をもっと増やしてほしい。また、参加者どうしの意見交換の中で出た意見はどのように反映されていくのか。

**【事務局】**

参加者どうしによる意見交換については、市職員に対する質疑応答の時間ではなく、学校統合に向けて思いを語っていただく場となっています。そのため、意見に対する市の考えを示す場ではありませんが、今後、検討を進めていく中で当然参考にさせていただきます。また、意見交換会の中で意見が言いにくい、もっと質問したいことがあると感じている方は、メールなどで市にお問い合わせいただければ回答いたします。

**【質問 12】（岩成台小学校区）**

意見交換会は統合を前提とした説明会のように感じる。統合は大前提として、統合の方法について検討していくのか、それとも統合するかどうかについて、まだ検討が可能なのか分からない。それによって個人的には関わり方が変わってくるので、決定事項と変更可能な部分を教えてほしい。

### 【事務局】

統合の必要性も含めて検討するとしていますので、統合を決定しているものではありません。

### 【質問 13】（岩成台西小学校区）

児童生徒数推計の根拠をしっかりと示さないから、統合ありきで進めているのではないかと思われる。たくさんの市民がこのように考えているので、数値の根拠を示すことを真っ先にすべきである。

### 【事務局】

繰り返すにはなりますが、決して結論を決めているわけではなく、統合の必要性について数値をもって説明しています。まずは課題を共有して、本当に統合が必要かどうかを市と皆様、皆様どうして検討していただく段階にあると思いますので、決して統合することを前提に進めているわけではありません。今後の議論の過程の中で様々な選択肢があると思いますが、それらを全て排除するわけではありません。まだじっくりと検討していきたいという段階であるので、様々なご意見があるとは思いますが、最善の結論に導いていきたいと思えます。決して急いで進めていくつもりはありませんが、スピード感をもって進めていくことは当然皆様も感じていらっしゃると思いますので、上手くバランスを取りながら進めていきたいと思えます。

## 3 参加者どうしによる意見交換

1 グループ5人から6人で円になり、テーマごとに参加者どうしで自由に発言し、意見交換を行った。各グループには職員が入り、進行・発表を行った。

参加者：21人（藤山台小学区13人、岩成台小学校区3人、岩成台西小学校区5人）

各テーマとテーマごとの主な意見は次のとおり

### (1) テーマ1 統合した新しい学校に期待すること

#### 【魅力ある学校づくりについて】

- ・小中一貫教育を導入するなど、魅力ある学校をつくってほしい。
- ・子どもの個性を伸ばすことができる学校をつくってほしい。
- ・地域の方や障がいを持つ方などに関わることができる授業を多く導入してほしい。
- ・ICT教育の充実など、特色あるカリキュラムを取り入れてほしい。また、高蔵寺ニュータウン地区のICT教育について、市はもっと積極的に情報発信してほしい。

- ・藤山台小学校区に転居してきた家庭で、学校の魅力（ICT教育、新しい校舎）により選択したという方がいる。やはり魅力ある学校づくりが期待される。
- ・動物をたくさん飼育し、命を大切にする教育を行うなど、他校にない取り組みをする学校をつくってほしい。
- ・統合する際に、元あった学校のあり方をベースにするのではなく、学校名や校歌のあり方も含めて新しい学校を作る方向で取り組んでほしい。
- ・新しい学校の設立に自分が一員として携われることが嬉しい。
- ・新しい校舎、きれいな施設は登校意欲につながる。やはりトイレがきれいだと言いたい。
- ・ハード面の整備、トイレもきれいな方がよい。
- ・高蔵寺ニュータウンの活性化につながる魅力ある学校づくりが重要。
- ・もともと持っている地域の力が活かされる学校づくりをしてほしい。
- ・地域と学校の距離が近い方がよい。学校の授業に地域の方が関わることで、特別なカリキュラムを組むことができる。また、交通の見守りも顔を見知った形で安心して行うことができる。

#### 【不登校の子どもたちへの対応について】

- ・統合して空いた学校に、市内の不登校の子が校区を超えて通える学校を作るなど不登校の児童生徒が通いやすい学校がよい。
- ・不登校の子が多くなっている。行きたいときに行ける学校があるとよい。不登校以外にも障がいのある子どもなど、いろいろな子どもに対応できる学校がよい。
- ・不登校の子どもへの対応をしっかりしてほしい。子どもたちが通いたくなる学校をつくり、他の学校区の子どもでも希望すれば通うことができる学校にしてほしい。

#### 【少人数学級について】

- ・規模が小さい学校であると、小学1年生の時点で人間関係が決まってしまう。人間関係を固定化させないためにも、複数クラスは必要であると思う。
- ・1学級35人の基準だと先生の目が行き届かなくなり、不登校が増えると思う。そのため、小学1年生は1学級25人、小学6年生は1学級35人にするなど、各学年で1学級当たりの人数の基準を変えてほしい。

#### 【その他】

- ・7時半ごろから小学校を開放し、子どもを預かってほしい。教員の働き方改革も進んでいると思うので、地域の方の協力のもと、開放するのはどうか。

- ・子どもにはいろいろな子と接してほしい。学年でクラス替えをするためにもある程度の子どもの数がいた方がよい。
- ・現在、子どもが通っている学校に満足している。新しい学校に望むことはない。
- ・現場の先生方の思いが大切。先生たちの意見も取り入れ活かしてほしい。
- ・統合すると学校の位置が変わる。藤山台小中学校の場所になると、他の中学校区の学校の方が近い場合がでてくる。統合を機に学校区の見直しを図ってほしい。
- ・小中一貫校は6年生が学校の最上学年という意識がなくなってしまうというデメリットがある。そのため、小学校と中学校の区切りがあった方が子どもたちのためを考えてもよいと思う。

## (2) テーマ2 統合する場合に心配なこと

### 【通学について】

- ・岩成台中学校と岩成台西小学校の前の道が危ない。
- ・通学バスは必ず導入してほしい。また、バスを導入する場合、バスを利用する世帯だけが料金を負担することはやめてほしい。
- ・熱中症が心配なので、通学路の途中にクールスポットを設置してほしい。
- ・藤山台中学校と小学校が近い場所に家を建てた。岩成台中学校の場所で統合する場合、家から遠くなってしまうことが心配。
- ・通学範囲が広がる。小学1年生には通学バスが必要だと思う。また、校区の見直しもあわせて考えることも必要だと思う。
- ・スクールバスが導入されるとすれば、バスが停まる場所の確保や、そこに児童生徒が集まって待つ場所があるかどうか、また地域住民とトラブルにならないような配慮も必要になると思う。
- ・校区が広がるので、交通の面、安全面が心配。
- ・通学距離が広がるからといって、スクールバスを出すのは慎重にしてほしい。子どもは歩くことも必要。
- ・やはり登下校の方法が心配。工事などに伴い、仮の移転をする期間があるとすれば、その際の移動も危険や無理がないように配慮してほしい。
- ・歩くことが前提となるので、学校の位置は中心部にもってきてほしい。

### 【少人数学級について】

- ・子どもたち一人ひとりの状況を把握できるなど、小規模校の良いところがあるため、小規模校も残してほしい。
- ・小規模校のメリットを適正規模の学校にも取り込んでほしい。

- ・少人数学級を実施してほしい。愛知県から教員が配置されないなら、市の負担で配置してほしい。
- ・小規模な学校ならではの特色がある。各学校の特色は残るのか。

### 【子どもの数について】

- ・ニュータウン地区に子どもを増やすためにも、まちづくりの観点から検討を進めてほしい。
- ・統合したとしても子どもの数は減っていくがどう対応するか。
- ・統合して新しい学校ができるなら、魅力ある学校づくりや市の政策で子どもが増える仕組みをつくってほしい。

### 【その他】

- ・統合の検討を進めるにあたり、未就学児の保護者の声がとても重要であると思うが、意見交換会にあまり参加されていない印象を受ける。幼稚園や保育園に市が直接説明しに行くなど、多くの未就学児の保護者に検討の内容を知らせてほしい。
- ・統合により校区が広がり、子どもたちの遊ぶ範囲が拡大することが心配。
- ・統合後の子どもたちの人間関係が心配。統合する前に、互いの学校の交流を深めるため、イベントなどを企画してほしい。
- ・授業参観や運動会など、保護者が学校に集まる機会に行きにくくなる。保護者への支援も必要。
- ・子どもたちだけでなく、各学校の保護者のつながりも円滑に進むようにしていきたい。
- ・然るべきタイミングで、早めにスケジュールが示されるとよい。団地の特性として、新しく拠点となる学校の近くに、住民自身が集まってくることも期待できるのではないか。
- ・地域と学校の距離を近くしたい。
- ・市全域で学校選択制を導入してはどうか。

### 【教育部長総括】

ありがとうございました。

各グループの話し合いでは、小中一貫校、ICT教育、地域住民との連携、子どもたちが増える取組など、様々なキーワードが出ました。住民の皆様どうして話し合っていたかと、いろいろな視点や考えに触れ、互いに気づきがあったり、学びがあったりしたのではないかと思います。

不安なことや心配なことはあると思いますが、将来の子どもたちのために、改めて学校のあり方を考え直す良い機会であると思いますので、またこのような機会があれば是非参加していただき、少しでも興味や関心を持っていただき、周りの方にも広めていただきたいと思います。子どもたちにとって良い学校をつくりたい、良い教育を提供したいという考えは皆様と一緒にあると思っています。

最後に、小規模校ならではの良さがあることについて、皆様の思いとしてあると思いますし、私もそう思います。ただ、整理して考えなければいけないのは、少人数教育と小規模校の違いです。少人数教育では、教員が一人ひとりの子どもの状況をきめ細かく把握しやすく、個々に応じた指導ができるなどの効果があります。一方で、規模の小さな学校でなければきめ細かな教育ができないわけではなく、規模の大きな学校であっても、きめ細かな教育を当然行っています。規模の大きな学校でも、一人ひとりの子どもたちに向き合った丁寧なきめ細かい教育をしていくことが現場の先生方の使命であると思いますので、一定の規模を確保した上で、きめ細かな教育を提供していくことが重要であり、そのあたりは今後の検討課題であると思います。

本日はありがとうございました。

#### 4 その他

##### 【事務局】

- ・今後の進め方については、これまでの意見交換会などを踏まえ、高蔵寺ニュータウン地区全体での基本方針の策定を進めていく。基本方針の案がまとまったら、パブリックコメントを実施する。パブリックコメントは、市が政策などを決定する際に広く市民に意見を募るもので、インターネットの活用や公共施設での閲覧などで実施する。
- ・基本方針の策定後は、藤山台・岩成台中学校区の保護者や地域の代表の方、学校関係者などで構成する「学校づくりを考える懇談会」を組織し、具体的な検討を進めたいと考えている。
- ・学校統合の取組の情報については、情報紙「学校のこれから通信」を発行している。「学校のこれから通信」は保護者の方へは学校情報配信アプリの Home&School で、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。

#### 5 閉会

午後0時10分 閉会